

OBD機能の動向調査の 検討状況について

自家用乗用車の車検等の確認方法の見直し

➤ 本検討会の中間とりまとめ（R4.3）は、以下の方向で検討を進めている

車検時の確認方法の見直し

車検業務で実施する78項目については、以下のとおり

- | | |
|-------------------|-------------|
| ① 見直しが見込まれるもの | 7項目（次頁以降参照） |
| ② R4年度引き続き検討を行うもの | 18項目 |
| ③ 検討の結果変更しないもの(※) | 53項目 |

- 駐車ブレーキ機構／引きしろ
- トランスミッション・トランスファー
／オイル漏れ、オイル量
- 点火装置／点火時期
- ディストリビュータのキャップの状態
- 燃料蒸発ガス排出抑制装置
／チャコール・キャニスタの詰まりと損傷
／チェック・バルブの機能
- タイヤ／空気圧

法定点検（一年点検）時の確認方法の見直し

一年点検で実施する27項目については、以下のとおり

- | | |
|-------------------|-------------|
| ① 見直しが見込まれるもの | 5項目（次頁以降参照） |
| ② R4年度引き続き検討を行うもの | 7項目 |
| ③ 検討の結果変更しないもの(※) | 15項目 |

- 駐車ブレーキ機構／引きしろ
- トランスミッション・トランスファー
／オイル漏れ、オイル量
- 点火装置／点火時期
- ディストリビュータのキャップの状態
- タイヤ／空気圧

日常点検時の確認方法の見直し

日常点検で実施する16項目については、以下のとおり

- | | |
|-------------------|-------------|
| ① 見直しが見込まれるもの | 2項目（次頁以降参照） |
| ② R4年度引き続き検討を行うもの | 1項目 |
| ③ 検討の結果変更しないもの(※) | 13項目 |

- 駐車ブレーキ・レバー／引きしろ
- タイヤ／空気圧

※ 今回の検討では、変更を行わないと判断したが、今後の技術の進化に応じて見直しを検討する

駐車ブレーキ機構／引きしろ

確認のタイミング

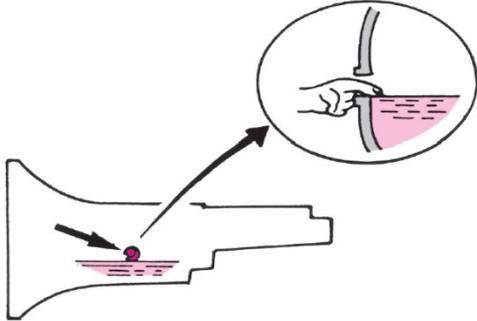
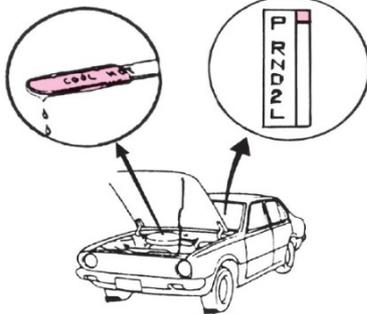
車検時	○	法定点検時	○	日常点検時	○
-----	---	-------	---	-------	---

確認事項	詳細
現行の法定点検時の実施方法	<p>○ パーキング・ブレーキ・レバー(ペダル)を規定の力で操作したとき、引きしろ(踏みしろ)が、規定のノッチ数(ラチェットがかみ込む音で確認)の範囲にあるか、また、開放時に走行位置に保持されるかを点検</p> <p style="text-align: center;"> 《レバー式》 《ペダル式》 </p>
新たな実施方法の提案	<p>電動式は、それ以外の方式で実施しているラチェットがかみ込む音の確認などは不要。一方で、当該機構に係る警告灯表示等は確認</p>
課題	<p>(確認中)</p>
車両の特定方法	<p>装置の形状が異なるため、目視で確認が可能 ①電動式のもの：スイッチ式であり、判別可能 ②それ以外の方式：レバー式、ペダル式など①以外の方式であることは判別可能</p>
その他	<p>特になし</p>

トランスミッション・トランスファー／オイル漏れ、オイル量

確認のタイミング

車検時	○	法定点検時	○	日常点検時	—
-----	---	-------	---	-------	---

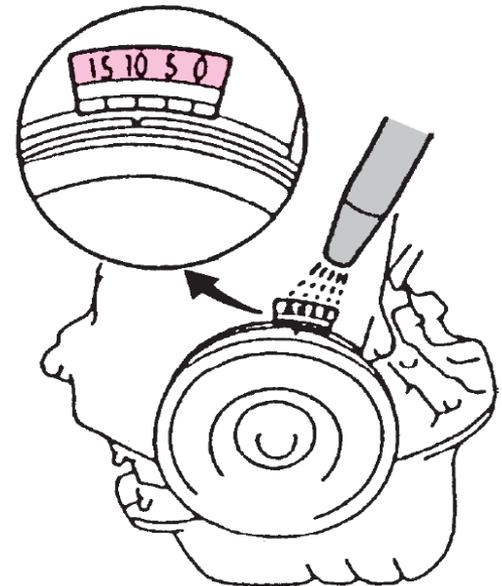
確認事項	詳細
現行の法定点検時の実施方法	<p>(オイル漏れの点検) (略)</p> <p>(オイル量の点検)</p> <p><M/T車></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リフト・アップなどの状態で、トランスミッション及びトランスファのフィラ・プラグを取り外し、プラグ穴に指を入れるなどしてオイル量を点検。(オイル漏れがなければ、オイル量は正常と判断して、この点検を省略可)  <p><A/T車></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 水平な場所に車両を止め、パーキング・ブレーキを確実に作動させてエンジンを暖機し、アイドル状態、ブレーキ・ペダルを踏み込んだ状態でシフト・レバーをゆっくり各レンジにシフトした後Pレンジ(車両によっては、Nレンジ)に戻す。そして、レベル・ゲージによりオイル量を点検。 ○ レンジ操作の際、シフト・レバーに異状な重さやたががなく、ポジション・インジケータの表示と一致しているかを点検。 
新たな実施方法の提案	<p>オイル量の点検について、A / T車で「レベルゲージが無いもの」は、M / T車と同様にオイル漏れが無ければ、オイル量は正常と判断して、この点検を省略</p>
課題	<p>(確認中)</p>
車両の特定方法	<p>目視でオイルレベルゲージがないことを確認し、該当車かどうかを判断</p>
その他	<p>特になし</p>

※一般的な自動車についてその標準的な使用を前提とした実施方法と必要な整備方法の指針を示したものである。

点火装置／点火時期

確認のタイミング

車検時	○	法定点検時	○	日常点検時	—
-----	---	-------	---	-------	---

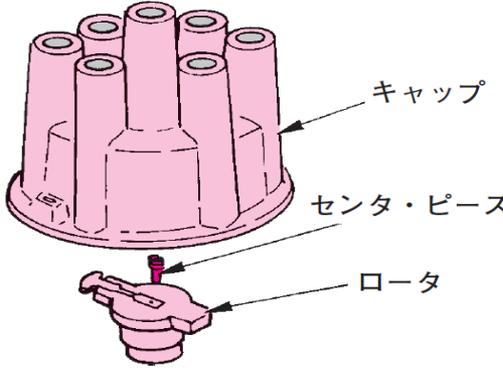
確認事項	詳細
現行の法定点検時の実施方法	<p>○ エンジン暖機後、規定のアイドル回転数で、タイミング・ライトなどを用いて、点火時期が適切であるかをクランク・プーリなどの合わせマークを見て点検。</p> 
新たな実施方法の提案	無調整式の車両の場合、点検省略 （無調整式以外の車両は、従前のとおり）
課題	（確認中）
車両の特定方法	目視で調整機能自体の有無を確認することで、判断可能
その他	特になし

※一般的な自動車についてその標準的な使用を前提とした実施方法と必要な整備方法の指針を示したものである。

ディストリビュータのキャップの状態

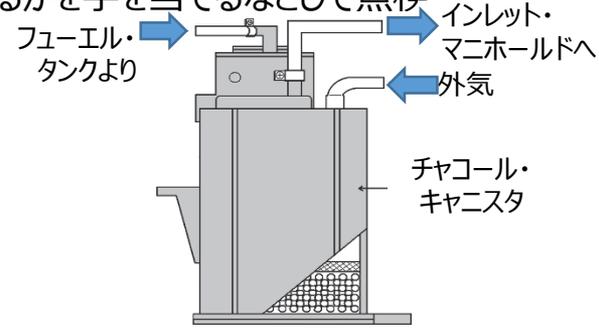
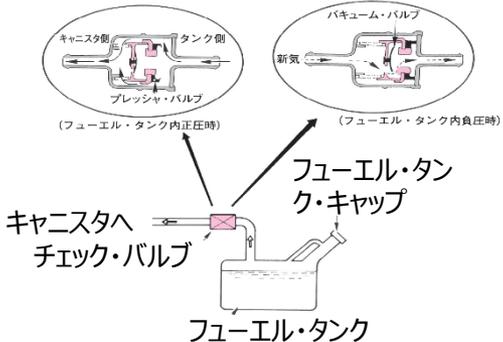
確認のタイミング

車検時	○	法定点検時	○	日常点検時	—
-----	---	-------	---	-------	---

確認事項	詳細
現行の法定点検時の実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ ディストリビュータのキャップを取り外し、目視などにより、次の点検を実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・ キャップ及びロータの汚れがないか。 ・ ハイテンション・コードの差込部に緩み、さびなどがいないか。 ・ キャップ内側各端子(セグメント)に焼損及びさびがないか。 ・ キャップの合わせ面がほこりなどで汚れていないか。 ・ センタ・ピースに損傷及び摩耗がないか、かつ、スプリングにへたりなどがいないか。 
新たな実施方法の提案	対象車種が少ないため、当該点検項目を廃止 (ただし、ディストリビュータ装着車は引き続き従前どおりの点検は必要)
課題	ディストリビューター付き車が入庫した際、点検した結果をその他欄に書き忘れる恐れがあり、その対策の検討
車両の特定方法	目視でディストリビュータ搭載有無を確認することで、判断可能
その他	特になし

※一般的な自動車についてその標準的な使用を前提とした実施方法と必要な整備方法の指針を示したものである。

燃料蒸発ガス排出抑制装置／チャコール・キャニスタの詰まりと損傷 ／チェック・バルブの機能

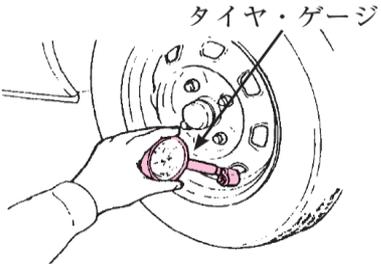
確認のタイミング					
車検時	○	法定点検時	—	日常点検時	—
確認事項	詳細				
現行の法定点検時の実施方法	<p> ≪チャコール・キャニスタ≫ ○ チャコール・キャニスタのフューエル・タンク側のホースを取り外しエアを送り、詰まりがないかを点検 ○ パージ・コントロール・バルブのフューエル・タンクからきているホース側を強く吹いたとき通気し、吸気側マニホールドからきているホース側を強く吹いたとき通気しないこと、また、大気開放側から強く吹いたとき通気することを点検 ○ チャコール・キャニスタ本体に損傷がないかを目視などにより点検 ≪チェックバルブ≫ ○ チェック・バルブを取り外すなどして、チェック・バルブの両側から交互にエアを送り、通気状態に差があるかを手を当てるなどして点検 </p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>				
新たな実施方法の提案	インタンク式の場合、メーカー指定の方法で確認				
課題	(確認中)				
車両の特定方法	目視で当該装置自体を確認することや整備要領書等の確認により、判断可能				
その他	特になし				

※一般的な自動車についてその標準的な使用を前提とした実施方法と必要な整備方法の指針を示したものである。

タイヤ／空気圧

確認のタイミング

車検時	○	法定点検時	○	日常点検時	○
-----	---	-------	---	-------	---

確認事項	詳細
現行の法定点検時の実施方法	<p>○ タイヤの接地部のたわみの状態により、空気圧が不足していないかを点検。 (扁平チューブレスタイヤなどのようにたわみの状態により空気圧不足が分かりにくいものや、長距離走行や高速走行を行う場合には、タイヤゲージを用いて点検。)</p>  <p style="text-align: center;">《乗用車》</p>
新たな実施方法の提案	タイヤ空気圧警報を搭載した車両の場合、ディスプレイ上の空気圧の数値表示を確認
課題	<ul style="list-style-type: none"> • 日常点検における事項のユーザーへの正しい理解浸透 • 車検時や法定点検時は、タイヤの亀裂、損傷などもあわせて確認する必要があるが、OBDではこれらの確認は困難
車両の特定方法	ディスプレイ表示を確認
その他	特になし

※一般的な自動車についてその標準的な使用を前提とした実施方法と必要な整備方法の指針を示したものである。